

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 新領域創成科学研究科修士 2 年生

参加プログラム: European Studies Programme

派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Sciences Po. is a prestigious school offering world-class level education of social sciences. Many politicians in French speaking countries are alumnus of Sciences Po.

参加した動機

As student majoring in social science, I think Sciences Po. is the dream school for many of us. Since my Masters research requires interdisciplinary knowledge, I wanted to learn a broad range of knowledge covering economics, politics and sociology.

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

none

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

Visa is not required for foreign students. For international students who need to obtain a Schengen Visa, at least apply for it 20 days before departure. And one important notice is, when you apply for the visa, ask the French Embassy if the visa you obtained will be validated before your intended departure day, some of international students had to buy a new flight ticket after they obtained the visa.

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

Not required for this program.

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

I bought overseas travel insurance.

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

I informed the international office in our faculty about my trip before my departure.

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL ibt 113, little bit French for daily conversation

⑥ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

Remember to buy an adapter in Japan.

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

Students have to take a series of compulsory courses related to the history, administration of the EU and Europe, and choose two courses out of three optional courses, which are EU Economy, Politics and Foreign Policy, Migration and Identity. And students are required to submit a final report at the end of the program.

② 学習・研究面でのアドバイス

Not much.

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

Not much.

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

We live in the hotel arranged by Sciences Po. Twin room with cooking facilities. It is quite expensive comparing to other accommodation in Paris. Not recommend.

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

School gave every student a transportation pass. For us it is very convenient to visit any places in Paris.

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

Some areas in Paris have poor public security order. So do not go out at midnight alone. And also keep an eye on your belongings all the time.

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

Around 4000 to 5000 euro.

④ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

I received 100000 JPY grant from Todai.

⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

Sightseeing. Many museums in France are free to enter with student card.

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

I have to say I was a bit disappointed. Some lecturers and tutor are not very responsible for the students. But of course there are other lecturers who are very nice.

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

Pretty good.

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

I think this is indeed an eye-opening event in my life. We had a chance to enjoy the world-class social science education. We made a lot of friends and experienced different culture. I think the experience this time will motivate me to explore more in the future.

② 参加後の予定

Continue my research.

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

Always be eager to learn and obtain knowledge. You will find this program very helpful and fruitful.

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 公共政策学教育部 公共政策学専攻 M1

参加プログラム: パリ政治学院 (Sciences Po) European Studies Programme 2015 派遣先大学: Sciences Po

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体
 5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

Sciences Po (パリ政治学院)は 1872 年に設立された、フランス有数の社会科学系のグランゼコールである。歴代のフランス大統領である、オランド、シラク、ミッテランが卒業生に名を連ねるなど、エリート養成校として知られている。

参加した動機

- 1) 将来的に留学に行くことを予定しているため、海外で英語で授業を受けることの肌感覚を事前に知っておきたかったこと
- 2) プログラムの内容が自身の関心(EUの意思決定の仕組み)に沿っていたこと。
- 3) 様々な大学・分野の学生との交流を深めたかったこと。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

全体的に特にややこしい手続きはないが、個人的には授業の支払い(海外送金)が最も慣れていない手続であった。授業料の支払いはユーロでの海外送金になるため、為替の動向を見つつ、送金にかかる日数を考慮して余裕を持って実施すべきである。また、送金時の手数料が送金額から引かれて先方の口座に入金されるため、手数料分だけ金額を増やして送金することが必要(なはず)。調べてもいくら手数料がかかるか不明であったため、私は 15 ユーロ上乗せして送金した。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特になし(フランスへの 1 か月の滞在であれば、日本人はビザ不要のため)。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学生協保健サービス経由で、損保ジャパン日本興亜の海外旅行保険に加入した。約 1 万円のプランを選んだ。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学部(公共政策学教育部)において、「留学願」という書類を提出した。単位申請は実施していない。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

語学関係の準備は特にしていない。出発前の英語レベルは TOEFL(iBT): 107。フランス語は第二外国語として学んだ程度(仏検 3 級)。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

日本から持参した方がよいものについて、通常の旅行以上に必要なものは特になし。空き時間に読むための本などは、意外に読む時間が少ないため、2~3冊で良いのではないかと個人的に思う。出発前にやっておくべきこととしては、事前に学校から参考文献が提示されるため、その中の 1 冊だけでも簡単に読んでおくこと。予備知識はあった方がよい。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

・コース編成は、必修コースである「EU 概論」と、選択コース(3つから2つを選択)である「ユーロ圏での経済政策」「EU の内政と外交」「移民とアイデンティティ」に分かれ、オプションとしてフランス語の授業(レベル別)がある。

1 コマは 2 時間と長い。授業スタイルは、ややインタラクティブ(時々、先生が生徒に質問を投げたり、質問を求めたりする)な講義形式。先生によっては授業を工夫していた。印象に残ったのは、インターネット上のあるサイト(アプリ?)に生徒たちをログインさせて、そのサイト上で生徒たちに質問を投稿させて、その質問に先生が順次応えていくという形式で授業を進める先生がいたこと。さらに、そのサイト内には投票ツールがあり、それを用いて「休憩を取るか取らないか」の決を取っていたことも印象的。

・その他、Le Havre(SciencesPo の別キャンパスで現地の学生たちと討論、日帰り)と、Brussel(EU 議会博物館と、EU 議会と委員会の視察、1泊2日)への旅行があった。EU 議会博物館には、委員会の提案した法案を議会で議論して決定していく過程を体験学習することを目的としたシミュレーションゲームがあり、有意義であった。

・評価は、中間試験(20問ほどの多肢選択問題)と、エッセイ(A4 10 頁ほど)。

②学習・研究面でのアドバイス

・エッセイの執筆について。今回のプログラムに参加した学生は全体で 47 名であり、それが 4 つの Group に分かれて、各々Tutor(SciencesPo の学生、計 4 名)の指導を受けてエッセイの執筆を実施した。但し、Tutor の中には、あまり指導・助言を与えてくれない人もいたのが実際のところであった。Tutor 次第ではあるが、(新たなテーマに挑むよりは、)ある程度自分でマテリアルを集めて書き進められるテーマを選んでエッセイを書く方が良いと思う。

・授業中の発言は、恥ずかしがらずに積極的にした方が良い。無理に質問をする必要はないが、授業中に 1 個は質問しようと思っかけて(あるいはそのように自分の中でルールを決めて)、授業を受けた方が自分のためになると個人的には思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

・先生の中にはフランス語訛りの強い英語を話す人がいるため、特に帰国子女の人にとってはかえって聞き取りづらいということがある模様。(私は純日本人なので特に問題はなかった。)

・英語の論文や本を読むことには慣れていての方が良い。(特にエッセイを書く際に、関連文献を読むことは必要であるし、英語表現のレパートリーも多いとなお良いので。)

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

・SciencesPo が手配したアパートホテル(adagio)。2 人 1 部屋で、1 か月(28 泊)で 1,330 ユーロ。(キッチン、ユニットバス、Free Wifi つき)

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

・気温は日本と同じくらい。東京ほど乾燥していない。天気は変わりやすい(1 日の中で雨が降ったり、晴れたりする。)

・大学のキャンパスはサンジェルマン通り沿いにあり、観光スポットへのアクセスは良い。

・SciencesPo が手配したアパートホテルと大学とはメロで 30 分程度。SciencesPo から、パリ市内の交通機関(メロ、バス、トラム、RER)に乗り放題のチケットが配給されるため、移動には困らない。

・食事については、自炊と外食が半々程度。お昼は専ら SciencesPo の食堂(1 食 3.75 ユーロと安い)を利用。

・支払は基本的にクレジットカードを使用。キャッシュで持っていたのは 200 ユーロ程度。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

・プログラムに参加していた学生の中で、RER でスリにあった人がいたので、治安は必ずしも良いとは言えない。しかし、油断しなければリスクは軽減できる。

・医療機関は使用しなかったため事情は不明。現地で風邪を引いたが、日本から持ってきた薬で十分対応できた。なお、パリでもインフルエンザが流行っていた。

⑤ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・航空賃:約 10 万円
・保険:1 万円
・授業料+宿泊費:約 54 万円
・食費など:約 5 万円

合計:約 70 万円 (娯楽費や、週末の旅行費などは除く)

⑥ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東京大学より本プログラムについて支給された 10 万円のみ。

⑦ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

・週末は概ねパリ市内の観光。1 回だけカンヌまで旅行し、現地のマラソン大会に参加。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

・学習面では、前記の通り Tutor が割り当てられるものの、人によってはあまりサポートを期待できない場合がある。ただ、そもそもサポートが必要になるほど困らなかった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

・図書館は設備としては充実しているが、席数が少ないため混んでいると座れない。1 度に 10 冊まで、1 か月借りることができたので、本の借用については問題ない。

・スポーツ施設の有無は不明。

・食堂は前記の通り。メインのキャンパスから歩いて 10 分ほどの場所に 1 か所、歩いて 20 分ほどの場所に 1 か所の合計 2 か所あるが、前者のみ使用した。

・PC 環境について、キャンパス内で Wifi が使用できる(東京大学と同じレベル)。図書館内に PC 端末(Mac)があるが、私はほとんど使用しなかった。(図書館にあるプリンタから文書を印刷するときのみ使用。なお、コピー/プリントは白黒 1 枚あたり 5 セントだが、SciencesPo から配給される学生証に初期状態で 30 ユーロ分チャージされているため、都

合 600 頁分コピー/プリントできる。)

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

・プログラムの意義:

- EU という超国家的共同体の誕生の経緯、発展の歴史、現状の課題を俯瞰的に学習することができること。
- 講義を通して、ヨーロッパが抱える問題(ギリシャ危機、ウクライナ危機、移民の問題、対テロ対策)の認識の仕方と、それに対する対策についての議論を、第三者ではなく当事者の視点で学ぶことができること。
- エッセイを書くことにより、EU に関するある課題について主体的に理解を深めることができると同時に、Academic Writing の基礎を身につけることができること。

・参加を通じて成長したこと:

- EU の各政策分野における議論の状況を把握し、日本の政策と比較する上での基礎知識を身につけることができたこと。
- エッセイを英語で書く能力(初めての機会だったので)。
- フランス語のヒアリングの能力。

・その他留学を通じての所感:

- 日本の大学生のみが参加しているので、かなり気楽に取り組めるプログラムだと感じた。
- 学部の 1 年生から、修士の 2 年生まで、参加者の年齢層は多岐に渡ったが、個人的には、高学年の段階で参加した方が得るものはより大きいのではないかと感じた。(学部の 1・2 年生で参加するのであれば、経済学・政治学の素養を十分につけた上で参加するべきだと思う。)
- 当面はアジア、ないし東アジアで日本を含む地域共同体を作ることはほぼ不可能である(か作っても失敗する)と考えるが、数十年というスパンで見れば、その気運・必要性が高まる蓋然性は高いと思われるため、先行事例の 1 つとして EU のことを研究する意義はあるのではないかと、という視点を持つようになったこと。

②参加後の予定

- ・本年 9 月より、SciencePo へ交換留学(1 年間)予定。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

- ・貴重な時間とお金をかけて参加するプログラムなので、自分なりの目標を立てた上で参加するのが良いと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

SciencesPo HP: <http://www.sciencespo.fr/en/home>

EU HP: http://europa.eu/index_en.htm

Hix, S. & Hoyland, B. (2011) "The Political System of the European Union", 3rd edition, Palgrave

- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 大学院公共政策学教育部・修士1年

参加プログラム: European Studies Programme

派遣先大学: パリ政治学院(シアンスポ)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界: 未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

フランスにける Political Science 分野で一番知名度をもっている大学である。

参加した動機

European Union に関する政治、経済などを勉強すること。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

分からないことがあれば直接向こうの担当先に問い合わせるようにすること。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国人の場合に出発1カ月前にビザを申請しなければならない。(ビザの有効開始日と飛行機チケットの日付に注意すること)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

ビザ申請のため、海外旅行傷害保険に加入しなければならない。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL(ibt)の提出すること

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

スリッパ!

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

PPTを使った講義が中心となる。TA セッションや debate 等もある。

②学習・研究面でのアドバイス

SciencesPo の図書館を活用した方がいい。

③語学面での苦勞・アドバイス等

日常生活のためフランス語を少しでも勉強した方が便利であるが、話せなければ英語でもなんとなく通じる。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

アパートホテルでシェアルームに滞在した。キッチン等もある。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

地下鉄が乗り放題なので通学やパリで市内観光などには便利だと思う。

日本で一部だけ両替した現金とクレジットカードを利用した。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
日本より治安がそんなに良くない。特に地下鉄と駅などではスリが多い。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃:12万円 授業料+住居費:43万円 食費:5万円 娯楽費:4万円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大本部から10万円分をいただける。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
周辺諸国、フランス国内、パリ市内で観光すること。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
大学院生がチューターとして配属されたが、人によって教え方が違う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
食堂が探しにくいがかなり格安である。
試験期間なので、図書館が開館からすぐ満席になる。F

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
他の大学の学生(日本人、中国人、韓国人)との交流を通じて学ぶことが多いと思う。
グローバルの視点で物事の考え方が身につけた。
EUへの理解を深めた。

②参加後の予定
就職活動をすることである。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
安くないプログラムなので、目的意識と主体性を持った上で参加した方がいい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部 一年

参加プログラム: Sciences Po Spring 2015 European Studies Programme 派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 7.その他(大学院進学)

派遣先大学の概要 パリ政治学院はヨーロッパでの一流な大学で、文系の研究が非常に優れている。卒業生の中にはヨーロッパまたは世界中でも有名な人が多い。

参加した動機 日本の大学と違う勉強の雰囲気を感じてみたいと思って参加しました。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大に申請資料を出した後に、Sciences Po から追加資料の添付もありました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人の学生はあまり気にしなくてもいいですが、中国人の学生はビザに書いてある滞在期間の発効する日付が飛行機の到着日と一致しているか確認してください。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協からの情報を通じて、損保ジャパンの海外保険に加入しました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL98点です。他には100点以上の人も結構いました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ホテルでのスリッパ。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

授業の内容はほとんどEUについてのことです。

②学習・研究面でのアドバイス

早い段階で最終レポートを書き始めたほうがいいです。

③語学面での苦労・アドバイス等

いろいろな先生の授業も受けるから、フランス語のアクセントがついた英語を聞くのもあって、あれと思った時もある程度あります。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
学校と電車で30分の距離で、二人部屋です。基本の生活用品(料理用具など)は付いています。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
雨が多いです。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
自分の貴重品を刻々注意してください。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
5000 ユーロで 650000 円くらいです。授業料 2500 ユーロで家賃 1000 ユーロ、残りは日常の生活料金と週末旅行代です。
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東大から 10 万円をもらいました。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末は全部旅行で、充実していました。ただし、旅行するにはあらかじめの準備も結構ありました。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
担当の先生はいつも親切に対応してくれます。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
図書館の利用者が多くて、席がなかなか見つかりません。食堂は学校とちょっと離れたところにあります。

プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
今回のプログラムで、ヨーロッパでの学校の雰囲気や生活を体験できて、最初の目標が達成されたとも言えます。もちろんプログラム自体の学術的な価値が高いですが、留学することで自分の経験したことがないこととあって、視野が広がります。
同じプログラムの参加者、あるいは現地の人と友達もできて、すごく嬉しいです。
- ②参加後の予定
今後も語学に力を入れて、他の留学プログラムに応募したいと思います。
- ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
何も考えずに、とりあえず行ってみよう、世界はそのうちに開いてくるよ。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部思想文化学科宗教学宗教学史学専修

参加プログラム: パリ政治学院春季短期留学プログラム 派遣先大学: パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤民間企業(業界:貿易、観光) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

社会科学系のグランゼコールで、有名政治家を多数輩出しているエリート校。

参加した動機

ヨーロッパのムスリム社会に興味があったため。
英語のプログラムだったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
募集が開始される前に、早めに TOEFL スコアを出しておきたい。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
90 日未満の滞在につきビザは必要なし。入国目的は「観光」で問題ない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
無料のクレジットカード付帯保険(エポスカード)。申請すれば加入証明書が発行される。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
東大の学期とは被らないため問題なかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
特になし。出願時の TOEFL 準備はそれなりに努力がいった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
『地球の歩き方』。耳かき等衛生用品。とくに現地では買えないもの。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
冬学期の期末レポート・試験で時間が取れず、ほとんど事前予習ができなかったが問題はなかった。大学受験レベルの世界史・地理の知識(主にヨーロッパ現代史、欧州統合)があればよい。持参した日本語の書籍(森井裕一 『ヨーロッパの政治経済・入門』 有斐閣ブックス など)がちょっとした調べ物に役立った。

②学習・研究面でのアドバイス

授業レベルは、決して難しくはない。基本的にすべて講義形式。英語も大方聞き取りやすかった。しかし、どうしても**教授の語りがヨーロッパ中心の視点に偏りがちになるため、それを相対化できるだけのリテラシーが必要だ**と思った。ヨーロッパの政治・経済や EU 関連の事柄についてある程度興味が絞れていると、より知識が整理しやすくなると思われる。私の場合、宗教学を専攻しているため、宗教や世俗主義(ライシテ)を自分なりの切り口としていた。

中盤に記号選択式試験(20 問)がある。ヨーロッパや EU に関する基礎知識を問うもので、難しくない。
コースの終わりには A4 サイズ 10 ページ程度(1.5 スペース)の英文エッセイを提出する。授業に関連する内容から問いを立て、その答えを論ずる形式。"Never use 'I'!" と言われ(つまり、「私の意見では～」 「～と思われる」 「～ではないだろうか」のような書き方は NG)、客観的であること、脚注が十分であることが求められた。問いに関しては学校から問いのサジェストチョンリストが渡されるが、チューターと相談の上リストに載っていないことでも比較的自由に扱わせてもらえる。書きたい内容がなんとなくでも決まっていれば、参考文献(言語問わず)を持参すると書きやすいだろう。学校の図書館には英語の本も多いが、ほかの参加者との早い者勝ちになる。

③語学面での苦労・アドバイス等

フランス語についてはまったくの初学者であったが問題なかった。フランス語のクラスは 5 コマ(計 10 時間)と授業時

間が限られてはいるが、フランス語のさわりの部分を、会話表現を中心に楽しく学ぶことができた。

生活について

①宿泊先(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

私は、住居を自分で手配することをおすすめする。学校が手配してくれるのは寮ではなく、普通のアパートメントホテルで、学校にも決して近くない。二人部屋だが、ルームメイトとのトラブルも少なからずあったようである。勉強に集中するためには、多少予算が増えても一人で住めるところを見つけたほうが得策と思う。学校の要求額(1,350 ユーロ)プラスアルファ程度の金額を出せば、インターネットの仲介サイトを通してアパートを借りることができる。そうすれば、プログラム開始前や終了後など、滞在を自由に伸ばすことも可能である。ただし、住宅保険(フランスでは加入が義務、物件にもよるがヶ月 50 ユーロ程度)なども自分で手配する必要がある。立地は学校から近いところ、少なくともゾーン 1 内であるべき。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

物価は東京より高い。特に食費は高く、レストランのランチは一食 20 ユーロ前後(3,000 円弱)する。食事は自炊が現実的。スーパーは至る所にあるため食材調達には困らない。交通手段に関しては、学校からメトロ・バスのフリーパスが支給される。

通貨は日本で両替もできるが、やはりクレジットカードが便利でレートもいい。少額の買い物でも大抵利用できる。IC チップ付きのものが望ましい。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

スリ、観光客狙いの詐欺に注意すれば問題なし。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空運賃は往復(乗り継ぎありの場合も)で 8~10 万円程度。娯楽費は個人差が大きいだが、26 歳未満の場合パリ政治学院の学生証を見せると、大抵の文化施設を無料または割引価格で見学できる。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

公式奨学金(10 万円)。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末などに宗教・文化間対話の活動をしている団体に取材に行っていた。東大での専攻分野の延長であったが、エッセイにも役立った。後半の週末は公共図書館でのエッセイ作成に充てた。余暇には観光のほか市営プールでの水泳やランニングなどの軽い運動をしていた。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

住居を自分で手配した学生へのサポートが少々不十分だった(初日の集合についての案内不備等)。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は基本的に閉架式。春季休業期間のためか週末は開いていなかった。平日も 19 時頃閉館する。英語文献は多い。スポーツ施設はなし。PC は学校にもあるが、エッセイ作成のため必ず愛機を持参のこと。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

最も印象的だったのは、教授陣の世界観・歴史観である。フランスの政治エリートがどのような価値観のもとで教育を受けているか、間接的に知ることができる。時には異議を唱えたくなるほどヨーロッパ中心の見方に偏っていたり、世界の他地域に対する優越感が見え隠れしたりすることがあった。リテラシーが試されるし、自分の価値観も知らず知らずのうちに偏っていないか、反省する良い機会となる。

パリで一ヶ月間生活することも、貴重なフィールドワークとなりうる。せっかくなので、観光旅行では行かないような移民街なども是非自分の目で見てほしい。

②参加後の予定

学んだ内容を卒業論文執筆や就職活動に活かしたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

一ヶ月間の学びは、自分の努力次第でいかようにも深めることができる。課業外の時間にも、工夫次第で勉強のチャンスはいくらでもつかむことができる(もちろん、外国での一人暮らしや観光も勉強のうちだ)。できるだけ多くの経験をして、これからの強みにしていってほしい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

明石和康 『ヨーロッパがわかる 起源から統合への道のり』 岩波ジュニア新書

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教育学研究科修士2年

参加プログラム:European Study Program 派遣先大学:パリ政治学院

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:シンクタンク) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 パリ政治学院(Sciences.Po) フランスのグランゼコール(高等教育機関)の1つ フランスを代表するエリート校である</p>
<p>参加した動機 ・就職後のための知識獲得: 4月から政策に関わる仕事をするのが決まっていたため、欧州政治に興味があった。 ・他大学の学生との交流: 政治・経済・政策などへの意欲・関心が高い学生と交流してみたかった。 ・語学力の向上: 筆者は初めての留学であるため、どの程度自分の英語が通じるのか試してみたかった。</p>
<p>参加の準備 ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) ・送金作業は銀行でできるが、事前に ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは必要ない ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 常備薬は必要。 参加者の中には、風邪をひいてスタディトリップに参加できなかった者もいた。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 医療費と飛行機の遅延の補償額に注意した。 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 成績証明書を用意した。東大前期課程の英文成績証明書は発行に1週間程度かかることに留意すること。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL iBT87 または IELTS6.0 が要求された。 IELTS は実施回数が少ないので、注意が必要。 ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 事前に EU についての予習を行っておくと授業の理解が助かる。経済の基礎理論の授業などもあったので、そちらの方面に明るくない場合は、Wikipedia でも良いので目を通しておくとよい。 先方から推薦図書のリストが送付されたが、1冊でも読んでいる人は半分くらいの印象だった。</p>
<p>学習・研究について ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 基本的に予復習の課題はない。ただし、中間テストがあるのでその直前は皆が復習をしていた。 授業はほぼ全ての授業がスライドを用いる形で行われる。 個人的には意外な授業として、気候変動に関する授業が複数回用意されていたことがあった。 ②学習・研究面でのアドバイス 英文エッセーの執筆経験がない場合には執筆に時間がかかるので、日本である程度テーマの大枠を考えておくとよい。 ③語学面での苦勞・アドバイス等 筆者は英語の基準点がギリギリで、政治や経済の専門知識もあまりなかったため、授業を理解するのにかなり苦勞をした。英語は基準点を余裕を持って超えておいた方が授業から得られるものがより充実するだろう。 フランス語は語学以外の授業で必要となる場面はない。</p>
<p>生活について ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 大学側が用意した Bercy 近くのレジデンスに泊まった。基本的には相部屋となるが、ツインのはずがダブルベッドになっているトラブルが大半の人にみられた。 IH や調理器具がそろっているので自炊が可能だが、調理器具は部屋によって大きな差がみられた。 ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>

パリは物価が高く、特に大学付近のカフェなどは物価が高い。昼飯は大学の学食で食べていた。朝夜はほとんど自炊。ただ、人によってはほとんど外食で済ませている人もいた。

大学からメトロなどの交通機関のフリーパスが支給された。パリ市内はほとんどメトロで回れるので、とても便利。ただ、改札の通り方や電車への乗り方のルールなどを事前に調べていった方がよい。

天気は基本的に曇りだが、大雨になることはほとんどないので、雨が降っても傘をさす人は少ない。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

スリが多発しているので注意。特に観光地や公共交通機関で多いらしい。参加者の中にも置き引きや RER でスリの被害にあった人もいた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

約 85 万円(授業料+宿泊代:54 万円、航空券:20 万円、食費:4 万円、娯楽費など:6 万円)

※1 ユーロが 130 円を超える時期だったため、費用が高めになっている。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

大学経由で奨学金 10 万円が支給された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

参加者の中には週末にフランス国内外に遠出している人が多くみられた。現地に行ってからでも手配は間に合う。

ただ、オペラなどをみたい場合には日本から予約して行った方が確実。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

エッセーのためにシアシポの大学院に在籍するチューターが割り当てられるが、人によって温度差が激しい。筆者の担当のチューターはほとんどアドバイスをしてくれなかったが、参考文献などをメールで送ってくれるチューターもいた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は狭く、席が常にいっぱいな印象。学生証に十分な枚数をプリンターで印刷できる金額がチャージされていた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

EU の政治や経済について、理解を深めることができた。

また、パリで一ヶ月を過ごしたことは、日本で学ぶ以上に EU やフランスの状況を肌で感じる良い機会になったと思う。

②参加後の予定

4 月から民間企業で働く予定である。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もし、英語力や生活面での不安がある場合でも悩んでいるならチャレンジしてみる方が良いと思う。

以前のプログラムの参加者に意見を聞くことが大事であると思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。